

令和元年 8月 市長定例記者会見

2019年 8月 2日(金)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから8月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、質問の際には、お手数をおかけしますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、質問の後はお切りいただきますようご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

【市長】 それでは、8月の定例記者会見でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、敦賀気比高校が甲子園出場を決めていただきました。2年連続9回目ということで、敦賀市挙げて応援していきたいと思っておりますので、どうか皆さんの応援をよろしくお願いいたします。また、甲子園出場を応援するために、ふるさと納税の項目を30日からつくりまして募っておりますので、ぜひそちらのほうもよろしくお願いしたいというふうに思っております。

それから、今年は開港120周年ということで記念事業をいろいろとさせていただいておりますけれども、7月25日、26日というところで全国の港湾都市協議会を敦賀市でさせていただきました。非常に盛会で終わられたというふうに感じておりますのでよかったなと思っておりますが、これから、8月16日はとうろう流し、また9月からお祭りがありますので、ぜひ敦賀の夏を盛り上げていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 では、続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 事業発表ですけれども、今月は1項目だけになりますけれども、令和元年度敦賀市職員採用候補者、障害者対象の試験の実施ということでございまして、障害者雇用率の向上や障害者の就労支援を推進することを目的として、障害のある方を対象とした敦賀市職員採用候補者試験を実施いたします。受付期間は8月5日月曜日から19日月曜日まで、1次試験は10月27日日曜日に敦賀市役所で行います。第2次試験は11月中旬、最終合格発表は11月下旬を予定しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けしたいと思っております。最初に幹事社さんから、よろしくお願いいたします。

【記者】 現在の市の職員としての障害者雇用率は何%で、法定で求められているものは何%なのでしょうか。

【総務部長】 法定雇用率が2.5%に対しまして1.73%になります。ただ、これは30年度で

すので、31年度はもう少ししますとまた公表されます。

以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん、よろしいでしょうか。——ありがとうございます。

それでは、各社お伺いをさせていただきます。発表項目につきましてご質問がありましたら挙手をよろしくお願いたします。

【記者】 現状1.73ということで法定には達していないということで、今回の採用試験で採用すると何%になると予定しているのか。

【総務部長】 現在足りない障害者数でいきますと、職員数でいきますと6名不足ということになります。今回は若干名ということですので、ゼロから3名までではないか、そのくらいではないかというふうに想定しておりますので。

ただ、また最新の数値というのが公表されますと、退職者等もありましたので、実際の雇用率というのが今の1.73よりも下のほうに、下方のほうに行くのではないかというふうに思いますので、6名不足が何名不足になるか、そこら辺はちょっとまだ申し上げることはできませんけれども、今のところはゼロから3名程度ですので、まだ法定雇用率には満たないというふうな状況でございます。

【記者】 確認ですけれども、障害者対象の試験の実施として、個別に募集から試験されるということは初めてなのでしょうか。

【総務部長】 はい。初めてでございます。

【記者】 障害者雇用に関してなんですが、いついつまでにこれぐらいの目標を立てているとか、そういった具体的な計画などがあれば教えていただきたいんですけども。

【総務部長】 できるだけ採用したいのですけれども、なかなか、一般企業のほうでもそういった法定雇用率というのがありますので、その関係もありまして、自治体とかそういったところではどうしても後手に回って充足し切れないというのが現状でございます。計画的にといいですか、できるだけ早い時期に、そういった数値達成に向けて努力したいと、こういうふうなスタンスでございます。

【記者】 今のこれがどういった程度の障害者雇用なのかかわからないんですけども、例えば庁舎をバリアフリー化しないといけないとか、そういう予定は何かありますか。庁舎の構造とか。

【総務部長】 採用された方の状況によりまして、ある程度そういった補修、改修というのは、必要な場合については対応したいというふうに考えております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さんから、よろしくお願いたします。

【記者】 日本と韓国の関係悪化で、自治体間の交流にも若干影響が出始めているんですけども、敦賀の場合、韓国の東海市と交流がずっと続いていると思うんですが、今後の影響というのはあるのかなのか、あるとすればどういう影響があるのか。その辺わかれれば教えてください。

【市長】 自治体間の交流というのは、基本的には今までも、国との関係が良好なときも悪いときも続けてきた経緯がありますので、気持ちとしてはそのまま続けていきたいとい

う気持ちがあります。その中で、韓国の情勢とかいうのもありますので、今まで継続してやっている部分はいいんですけれども、新しいものを何かしようとするとしても目立ってしまうので、その部分はちょっと控えたほうがいいんじゃないかなということを感じているところです。

【記者】 控えるというのは、何か。

【市長】 今回、東海市と交流で、今年は私どもが東海市に行くタイミングなんですけれども、それについては取りやめようということを考えていますということをお傳へしたという時点です。

【記者】 東海市のほうでは、伝えたことに対してどういう反応だったのでしょうか。

【市長】 7月31日付で文書を出させていただきましたので、その返事を待っているという形なんですけれども、基本的には取りやめる方向で進めていきたいと思っています。

【記者】 あと、その関連でもう一つ伺いますんですけれども、敦賀港と韓国との定期便があるわけなんですけれども、貨物ですが、この貨物量の減少傾向とか、何かその影響が見られるようなものはあるのでしょうか。まだ現状ではそこまでないものなのでしょうか。

【市長】 私の認識なので、また違えば訂正があると思いますけれども。若干荷扱い量は減っているということをお伺いしていますけれども、これによって減ったという品目ではないというふうに聞いております。船を使わない荷物のほうが対象となっているんじゃないかなというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん、よろしいでしょうか。

【記者】 関連の質問なんですけれども、こちらから行くのを取りやめるということですが、具体的にどなたがどういう日程で訪問する予定だったか伺いたいのと、あと現状、市の女性職員が派遣されている状況かと思うんですが、そちらの対応についてはどういうお考えがあるのかお聞かせいただければと思います。

【市長】 私ども、東海市に行く予定だったのは21日から、24日着ですから23日に向こうを出発する予定だったという予定なんですけれども、それについては取りやめをしようとしています。

また、東海市におります職員につきましては、何度も確認をしているんですけれども、そういう心配な思いをしたとか嫌な思いをしたことはない。非常に友好的に、好意的に業務を遂行しているということですし、東海市の市民の方から苦情が出たという話も一切聞いていないということをお伺いしておりますので、職員の安全性を確保できるのであれば研修期間を全うしたいというふうに考えておりますけれども、それにつきましても東海市のほうにちょっと判断を仰ぐ形になろうかと思っておりますので、問い合わせをしております。

【記者】 市長とどなた、何人程度で行く予定だったのでしょうか。

【観光部長】 訪問団なんですけれども、市長、議長、それぞれの随行が2名の計6名ですね。市長側が4名、議会側が2名です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いをさせていただきます。ご質問がありましたら挙手をよろしくお願いたします。

【記者】 質問なんですけれども、今おっしゃっていただいた市長の訪問と職員等の派遣のほか小学生の交流事業についても行われていたかと思うんですが、こちらについてはいかがでしょうか。

【市長】 敦賀市は海外に3つの姉妹都市がありまして、お互いに訪問する年と子供たちが交歓する年があるんですけども、今年はロシアのナホトカと交歓する年ですので、韓国の子供たちとの交流は、今年はない年ですので、何も影響はありません。

【記者】 ありがとうございます。

ちょっと別の質問になります。今回の交流事業の中止、中止になったことについての受けとめを改めてお願いできますでしょうか。

【市長】 受けとめといいますか、とりあえず今の情勢を鑑みたときに、新しく、敦賀に置きかえますと、敦賀に見えたときに、こんな人が来ましたよと盛大にできないだろうなというところがありますので、東海市のほうでも、来ました、よかったねというところに余りならないのかなというお互いのそういう判断がありまして、今回はお互いのためにやめておこうかなという感じの判断をしたということです。

【記者】 わかりました。

ちょっと言い方を変えます。これまで友好関係を東海市と続けてきたかと思うんですけども、今回、日韓関係が国と国との間で関係が悪化してしまっていて、こんなふうに影響を受けてしまったことについて、今後、東海市との関係、今まで友好だったと思うんですけども、どんなふうになっていくというふうに感じていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 姉妹都市の東海市とは、長い間、姉妹都市で友好関係を持っておりますので、この友好関係については変わらないものだというふうに考えています。

ただ、今、国と国との関係で少しぎくしゃくしておりますので、その部分を勘案して今回は中止にしたということで判断しました。

【記者】 今の関連で、字句の確認という大変ですけども、新しいものが目立つというふうにおっしゃったので。行ったり来たりしているわけですよ。つまり、行くということ自体が新しい事業だということではなくてということなんですか、それとも今回初めて行くのという趣旨で。全体としては多分、最後におっしゃったように、国同士の関係がぎくしゃくしている中でというようなことだと思います。その前段の説明で、新しいものが目立つのという意味が余りよくわからなかったもので、それはどういう意味というふうにとればいいのでしょうか。

【市長】 3年に1回、お互いに訪問し合っておりますので、それについては、前回、韓国から東海市が見えたときには、敦賀まつりの中でも、こうやって見えていますよ、皆さんよかったねみたいなご紹介をさせていただきました。多分、向こうの気持ちとすると、そういうことをしたいだろうなというふうに思っていますし感情的にもそうだろうなと。

ただ一方で、韓国の全国市長・郡守・区庁長協議会という中で公務遂行のための日本訪問を中断するような宣言もされていますので、そういう中で、東海市さんへ私どもが行って、よく来てくれましたと言いたいところがなかなか言いづらいだろうなと。そういう思いをするんだったら今回お休みしようかという。そんな強い意思表示じゃなくて、そっとしておこうかというような意味合いにとっていただければありがたいです。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【副市長】 これから行動をするものについてはという意味なんです。

【市長】 今、派遣しております職員について、今そこにいますので、特にそれについて支障がなければ、そのままおってもらったほうがいいのかと。

【記者】 アクションとして新しいという、そういう意味で、交流の局面として新しいということをおっしゃっているわけではないということですね。そういう理解だと僕も思うんですけども、一応念のためにと。思っ

ありがとうございます。

【記者】 一応、ほかの自治体の例ですと、韓国側の自治体から、結構、韓国政府に合わせる形で中止の意向を伝えられる場合が多かったと思うんですが、日本の自治体から主体的になって中止の意向を伝えるというのはちょっと珍しいかなと思ったんですけども、敦賀市のほうから主体的になって中止の意向を伝えたというところに関しては、どういった理由があるというか、そこまでおもんばかる必要があったのかというところが、必要性についての少しよくわからなかったという点があったんですけども。

【市長】 東海市の職員の方から、先ほど言いました韓国の全国市長・郡守・区庁長協議会でそういう決議がされたという、日本の訪問を中断するという宣言が出されたので、敦賀市さんはどうされますかというようなメールがあったんですね。それにつきましては、東海市の公式的な意見なんですかということも確認したんですけども、公式的な意見ではなくて、世の中を見たときにそういうふうに一職員というか一個人として感じるんですよというお話でした。ですけども、そういうことを感じている世間があるのであれば少し考えたほうがいいんじゃないかなということで協議をした結果、中止をしようということでお伝えしたところなんです。ですから、もう行きませんよということではなくて、中止をしようと思うんですけどもどうしましょうかというような尋ね方でさせていただいています。

【記者】 そうしますと、つまり双方の事務的なレベルの会議では、双方とも中止の意向について話し合っていて、お互い合意の上で今回はやめておきましょうかというような形になっているという理解でよろしいでしょうか。

【市長】 済みません。ちょっとそこはわからないんですけども。そのレベルはちょっとわかりませんが、そういうお互いの意見が出合ったので、やめておこうかなという形です。

【記者】 もう1個だけ。率直なお気持ちの部分、こんなふうに情勢的に中止せざるを得なくなっているようなことについて、残念ですとか落胆ですとか、あるいは怒りですとか、そういうような率直なお気持ちというところではどうでしょうか。

【市長】 そうですね。韓国の東海市の方と会うと、夏の武陵祭（ムールンジェ）にぜひ来てくださいねということをいつも言っていたので、非常に楽しみにしておりましたので、行けないのは非常に残念ですけども。ただ、向こうの気持ちとしても来てほしいという気持ちは今も持っていらっしゃいますので、それについては友好が壊れるものではないというふうに感じています。

ただ、今回、議長も一緒に行く予定でしたし、その後のポートセールスも少し予定しておりましたので、せっかく気合を入れて行こうとしていたのに行けないというのはちょっと残念ですので、そう思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 関連ですが、今、ポートセールスの話が出ましたが、ポートセールスについてはどうされる予定ですか。

【市長】 ポートセールスにつきましては、今回、議長も日程が合ったので一緒に行こうという話をしております、少し強力な動きになるのかなという期待はしていたんですけども、延期をしようということで考えています。

【記者】 あと、7月31日に東海市のほうに宛てた、いわゆる文書の内容があるなら、後でカウンターでいただけるか、今口頭で伝えていただけると。

【市長】 中身については今申し上げたような言葉ですので、特に変わった文書ではありません。

【記者】 敦賀市のほうから、意向として中止したいということを伝えている文書ということよろしいですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 もう1点確認なんですけど、こういう政治的な背景の中で、東海市とのこれまでの交流事業で、敦賀市側から、国同士の情勢の中で政治的な理由で交流事業を中止判断したということは、これまでかつてあったのかどうか。

【市長】 私の知っている範囲では、ないと思いますけれども。慰安婦問題のときもポートセールスは行っていましたので。

【観光部長】 過去、20年近く前に市民の船という事業がございまして、その公式行事が中止になったと聞いています。原因は小泉総理の靖国参拝だったかと思っています。

【記者】 それは敦賀市側が中止を判断したということ……。

【観光部長】 向こう側から、何かあったというふうには聞いております。

【記者】 今回は、だから敦賀市側の意向ということですね。中止意向ということで、その判断というのは初めてなんですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 ちょっと細かい確認になってくるんですが、この中止についてのやりとりというのは7月ごろから行われていて、これは半導体などの制限に関する措置に関係したものであったかと思うんですけども、今日閣議決定で、もうちょっとさらに制限品目を増やしますというような方針が示されていますけれども、それに関連して2つ。

1つは、またこういうふうに日韓関係が悪化しかねない材料が出てきたことに対して、敦賀市としてはどう受けとめているのか。

2つ目。今日は、そういった制限が厳しくなったことについて、東海市さんのほうから何か反応があったのかということをお聞きしたいんですけども。

【市長】 東海市のほうからは別に何にも反応はありませんけれども、今の時点で。私も、姉妹都市の目的といいますのは、先ほど言いましたように、余り政治に左右されなくて仲良く市民レベルでつき合っていけたらなということを考えてやっておりますので、ですから余り考えたくないです。ですから、そのまま行けるものだったら、行って友好してこれたほうがいいんですけども、でも、それが今の向こうのいろんな国の中の事情によって、かえって迷惑だという可能性があるのであれば、おもんばかってやめておこうかなと。ですから、行きたくないからやめたわけでは決してないというところをご理解いただきたいですし、こういう判断をしたことが余り大きくなってお互いの感情を傷つけるようなことにはなってほしくないということを思っています。

一番気にしておりますのは、私ども、職員を派遣しておりますので、その職員の安全と

というのが確保できるかということが一番の注目しているところですので、一番大事なところだと思っていますので、職員の安全を確保できるのかということと、もう一つは、東海市との友好は続けていきたいということをお互いに確認しながら進めていきたい。ですから、向こうも市民感情レベルでは嫌だという思いはないと思いますので、敦賀の市民の皆さんもそんな気持ちは、来るなみたいな気持ちは決してありませんから、そういうところの中でつながっていききたいというふうに思っているところは変わらない。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 東海からの返事を待っているところということなんですけれども、返事は必ず来るものでありという前提なのでしょうか。

【市長】 はい。来るものだと。

【記者】 必ず来るんですか。

【市長】 お互いに友好関係があるところなので、返事はあります。

【記者】 なるほど。そこでは、職員の安全確保などにも触れた回答になるのでしょうか。見込まれるのでしょうか。

【市長】 2通出しておりますので。私たち行かない判断をしましたので、それでよろしいかということの一つ出しています。もう一つは、職員のほうについては安全性を確保できるのか、改めて確認させていただきますみたいな文章になっていると思います。

【記者】 近いうちに来ると見られると。

【市長】 今日、間に合うとよかったんですけれども。

【記者】 別の質問になるんですけれども、6日に全原協のほうで要請活動を予定されているんですけれども、概略で結構ですので、今回こういった要請が主眼となるかというのをわかる範囲でお願いします。

【市長】 全原協の要請活動につきましては例年行っているものですが、4つ大きな項目がありまして、「被災地の復興」、それから2番目に「安全規制・防災対策」、それから3番目に「原子力政策」、4番目に「立地地域対策」の4項目です。経産省、文科省、内閣府、環境省、復興庁、規制庁、あと自民党の国会議員さんなどに要請書を手渡したり、またお願いしたりするという予定をしております。

【記者】 その関係でもう一つ。原子力政策については、新增設、リプレースについて明確な方針を出すようにとかそういったことになるのか、立地地域の対策については廃炉が終わるまで交付金を出してもらいたいといったような内容になるのか、その辺はどうでしょうか。

【市長】 それぞれたくさん項目がありますので、今おっしゃったことは求めていくことになりまして、廃炉が完了するまで交付税措置していただきたいということもありますし、特措法がそろそろ終わりますので、特措法の延長もお願いしたいと思っていますし、新增設、リプレースも項目の中に入っております。一番強くお願いしていきたいのは、国のエネルギー政策を、長期的な力強いエネルギー政策を出していただきたいということが一番かと思っています。

【記者】 間際に済みません。秘密会議、リラ・ポートのお話が出まして、市側の説明があったんですというお話でした。その近辺を取材させていただいたりしていると、市として今後、リラ・ポートというのをどうしていきたいのかというのがもう一つわからないな

という感じがするんです。今いろんな、議会を間に、間に入るという形というのも変ですけども、調査がされていますけれども、長期的な展望として、今後リラ・ポートをどうしていくのかというのは今時点どういうふうにお考えになっているのかというのをお聞かせ願えますか。

【市長】 リラ・ポートにつきましては、市の施設でありますので、温泉施設として継続していくというのが一番の目的です。

【記者】 もう一つ。我々も、これは議会側の問題ですけども、秘密会というようなことで事が進んでいくというのは、ちょっと何か心配だなという感じ、印象を受けています。なぜ心配かという、やはり今おっしゃったように市の施設ですし、市民の税金を使って行われていることの市側の意思決定なり、行為と言うとちょっと大げさですけども、プロセスというのがきちっと見える形で示されて、どこに問題があるのかということをはっきりさせるということが大事だと思うんですけども、その中で秘密会という形で、これは議会の判断です。

ただ、市側としても、それまでに公表の姿勢というのが十分だったのかというと、ちょっと足りないなという印象を個人的には持っています。多分、どのようにして疑念というか、わからないなというのを払っていくかということがこれから必要だと思いますけれども、過去のことも振り返って。何で過去が大事かという、これから先のことを進めていく上で、やはり過去こうしたということが決定的に大事になるからだと思います。すると、その情報の公開の仕方、出し方というのはどういうふうにしていこうというふうにお考えでしょうか。

【市長】 今おっしゃったように、秘密会にされたのは議会の判断ということですので、私ども市としますと、個人情報保護法などがありますので、出せる情報と出せない情報がありますけれども、出せる情報につきましてはきちんと出していこうという姿勢を思っております。

過去に情報が少なかったのではないかということをお感じになっているかもしれませんが、私どもは、リラ・ポートを運営していく上で、指定管理者ときちんと意思の疎通をしながら進めていきたいという気持ちはずっとありますので、その中で、もめているとか、そういう風評被害にならないような配慮というのも必要になってきますので、その中で情報が足りないと思われた部分があるかもしれませんが、決して隠しておこうという思いでやっているものではないということをご理解いただきたいと思います。

【記者】 あと、もう一つだけ。9月議会で一定報告を冒頭で、多分委員長が報告されるという形になると思われまじいけれども、それまでに、話し合いの結果、事業を受けるという形になるのか、新しい事業を提案してやっていくという形になるのか、そのあたりというのは今の段階ではまだ白紙という状態なのでしょうか。今後の支援の仕方というか、そのあたりは何か決めたりどうこうというのは今のところはないのでしょうか。

【市長】 そうですね。前回取り下げさせていただいた支援というのが一番いいのかなと思って私どもは提案したわけなんですけれども、それについてはノーという話でしたけれども。向こうからの提案というのはまだ出てきておりませんので、今、9月議会がどうのこうのというところにはないですね。

もう一つは、指定管理を受けられる上で、5年間のこういうことをしていきますという



約束事がありますので、その中から逸脱することはなかなかできないんじゃないかなという事は思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 関連なんですけれども、先般、リラ・ポートの件で、今年春までいた担当幹部のほうから、どこかで市の責任を明確にしないといかんというふうなやりとりをリラ・ポート側としたという記事を少し書かせてもらったんですけれども、市長は前市長から、前市長時代のことがずっとたまっていることがあると思いますので、湧上市長自体は、この担当幹部なんかのやりとりの詳細を聞いておられるんですか。もしかしたら副市長のほうがいいのかもしれないけれども。

【市長】 ある程度の話は私ども情報は共有しておりますけれども、詳細を全て知っているかと言われると、その詳細が何なのかというのがわからないので、ちょっと答えようがないかと思っておりますけれども。

【記者】 もう1点、追加で一つなんですけれども。そうすると、そういうことの経緯も一応市長は全部把握するおつもりで取り組んでおられると考えてよろしいですか。

【市長】 そのやりとりについては、よくわからない部分も多分あると思うんです。ですから、私どもの市の職員がこういうふうにしたということもありますし、向こうの方がそう思ったということもあるでしょうけれども、お互いに考えていることが全く一緒で一致していればもめないわけなので。ですから、トラブルが発生しているということは、意思の疎通がうまくいっていない部分があるかと思っておりますので、事実がどこにあったのかというのは、さかのぼって発見できるかどうかというのは難しい面もあるかと思っております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、なければ、これをもちまして8月の市長定例記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後2時6分 終了